

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972300578		
法人名	社会福祉法人 関記念 栃の木会		
事業所名	グループホームうらら		
所在地	下都賀郡壬生町北小林812-1		
自己評価作成日	平成28年10月28日	評価結果市町村受理日	平成29年1月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成28年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全員がトータルな接遇に対する姿勢を身につけ、ご利用者の心身の状態、気持ちを理解し、その人らしく穏やかな安心した生活が送れる様に、傾聴と寄り添いの気持ちを大切にしている。ホームの理念に基づいた、ご利用者一人ひとりを尊重し、出来る事、自立性を促しながら本人の意向に沿った余暇活動及び生活支援に努めている。又、ご家族様や主治医とも状態報告や連絡、相談を密にし、信頼関係を構築出来る様努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は町北西部の自然豊かな雑木林に囲まれた環境に位置している。外観は蔵の街をイメージしたモダンな作りの3ユニットの事業所である。同一法人の運営する特別養護老人ホーム、老人保健施設、デイサービス等があり、災害時の連携も速やかに出来るように訓練している。近くには救急医療センターがあり体調の急変時にも安心して対応できる態勢になっている。特に接遇面に力を入れており、「介護接遇マニュアル」の敬う心・やさしい心をモットーに日常生活における様々な場面の言葉のかけ方を実践し、職員と利用者は家族のような良好な関係を築いている。年間行事はお花見、七夕会、日帰り旅行、クリスマス会など、毎月実施し、利用者が楽しめる企画作りをしている。さらに地域に向かい、介護に関する知識を深めたり、グループホームの生活の様子など知ってもらう機会を作っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念に加え、棟ごとの理念も揭示し、接遇改善委員会での目標、介護マニュアルを職員全体で共有し実践につなげている。	各棟ごとの独自の理念の他に、毎月の目標を揭示し、毎日の申し送りの時に唱和している。職員全員が事業所独自で作成した介護マニュアルを持ち、サービス場面での支援態度や言葉かけに配慮し理念の具現化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員や自治会長を通して地域の神社や寺の祭りへの参加が恒例となっている。文化祭では幅広い年齢の方々が来棟、談笑・ゲーム等をして交流を広げている。中学校の体験や地域のボランティアの受け入れも継続している。	法人が自治会に加入している。地域のお祭りに参加したり、事業所の文化祭には自治会長の協力を得て、地域の方々にも見に来てもらっている。書道・カラオケ・傾聴・清掃等の各ボランティアが毎月訪問するなど地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、認知症の症状や接し方や日頃行っているケアについて報告、話し合いの機会を持っている。又、神社の祭りでは、認知症や予防、理解についての話をさせてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者、ご家族代表、民生委員、健康福祉課、地域包括支援センター職員を構成員として、ご利用者状況、行事等の報告をし、意見・要望等を含め議事録を全職員に回覧し周知、参考にして改善しサービスの向上に努めている。年に1度は消防署、地元消防団、ボランティアの方々をメンバーとし、助言を頂いている。	利用者・家族代表・民生委員・町職員・地域包括支援センター職員・消防署・消防団・ボランティアの参加のもと年6回開催している。利用者の活動状況報告の他、参加者からの意見をケアに活かしている。会議内容は家族懇談会等で家族にも知らせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で状況や活動報告、ケアサービスの取り組みを知らせている他、随時、電話等で相談や助言を頂く等連携をとっている。	役場に出向くほか、電話での連絡も多く、一人暮らしの方の住居地に関する事など、日頃から情報交換や相談をしている。運営推進会議の参加時に利用者の生活ぶりを把握してもらったり、町の福祉祭りには法人として協力するなど、日頃から連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者の習慣、気持ちを理解し基本的に身体拘束を行わないケアを実践している。精神面で不安定な時に一時的にご利用者の自室の窓を施錠する時もあるが、安全、安心な生活が送れるような工夫をし、玄関の施錠は行っていない。言葉による拘束にも気をつけている。	職員は言葉による拘束も含め、身体拘束をしないケアについて理解し、利用者への言葉使いが適切であったかどうかその都度注意し合い、共通認識を高めている。接遇面における内部研修を充実させ身体拘束の無い支援に取り組んでいる。玄関は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	接遇改善委員会を中心に話し合いを行い、虐待防止に努め敬う気持ちを大切に、明るいホーム作りを目指している。夜間も接遇改善委員を一名配置して、言葉遣いに注意している。ロールプレイング等の内部研修も行っている。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて知識習得に努めている。身内関係が希薄なご利用者には、安心して生活を送れる様関係者との話し合いを持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書・重要事項説明書で納得のいくまで確認して頂き、相談、話し合いをしている。退居については理由を明確にし、十分な説明を行い理解を図っている。改定時についても書面に合わせ説明し納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者にアンケートを実施、満足度を伺っている。その他、普段の会話の中で気軽に意見や要望が聞ける様、コミュニケーションを大切にしている。	家族の訪問時に職員が積極的に話しかけて意見を聴いたり、意見を出しやすいようにアンケートや家族懇談会を行っている。インフルエンザ予防接種を事業所内で実施してほしいとの要望に応え、職員や医療機関との協議により実施することになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、各棟のカンファレンス、朝礼時、又、随時意見を聞く機会を設け、話しやすい環境作りをしている。意見は検討し反映させている。	職員は日頃からリーダーや管理者に相談しやすい環境にあり、ほとんどの問題がその場で解決できることが多い。連絡ノートの活用やリーダー会議、職員会議でケアの方法を検討し、職員の気づきとして運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの勤務状況、努力、実績等を把握し給与、賞与に反映している。又、業務管理シートの個人の達成度に向けても上司と面接を行い向上心を持てる様努めている。各委員会活動、行事企画運営、居室担当を持ち、やりがいのある環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には新人用マニュアルに沿って力量を把握しながら勤めている。外部研修は、段階に応じて受講出来る様、機会を与えている。又、各自資格取得の講習、研修も同様である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム総会や研修を通して、活動内容や取り組み等参考にしている。同法人のグループホームとの交流は相互訪問し行事等を通じてサービスの向上に努めている。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心した生活が出来る様に本人の意見を尊重し、時にはご家族の協力を得ながら、悩み、相談事等を傾聴する等支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者、ご家族が不安に思っていること等確認し、今後安心した生活が送れる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、ご家族が思っている支援・内容等、どのようなサービスが適しているのかカンファレンスを行い、その都度提供し、傾聴している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の思いを尊重し、行動を共にしたり、時には見守り、ご利用者の時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを尊重し、信頼関係を築いている。懇談会、行事参加では年々ご家族の参加が増えている。うらら便りではその月の生活等を報告している。面会等も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会等の対応、支援では、関係が途切れない様、気持ちよく過ごして頂ける様努めている。	友人の訪問や、同法人運営の施設利用者との交流、移動美容室など馴染みの人や場所との関係の他、今までの趣味や仕事を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を把握し、孤立しない様、時には職員が間に入り、ご利用者同士の関わりを大切にしている。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後もサービスに関する助言をさせて頂いたり、講話指導に来て下さる等の関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、一人ひとりのニーズを把握できるようにチーム全員で協力している。困難事例が出た場合は都度カンファレンスを行い解決策を考え実施している。	利用者の些細な行動や表情の変化は随時申し送りノートに記録し共有している。利用者が何をしたいのか、どこに行きたいのか等を、職員全員が常日頃から気づき、把握するよう努めている。家族や知人からも意見を聴いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者、ご家族との面会時の会話の中にある生活環境や生活歴などを聞いて、情報としてそれをケアプランに反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人に出来る事、出来ないことを理解し、出来るようになるようなレクの提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを定期的に行い、都度ご本人、ご家族の意向を確認し、意向に沿ったサービスを提供出来ているのかの話し合いは都度チーム全体で行っている。	利用者や家族のニーズを確認し、職員の気付きをもとに主治医の意見も参考にして、利用者本位の介護計画を作成している。見直しは6ヵ月毎としているが変化が生じた場合は随時行い、モニタリングは3ヵ月に1度行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った支援をしていることを記録に記入し、その他、毎日の生活で気づいた事なども連絡ノート等を利用し、チーム全体で情報共有することでケアプランの見直しが行えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月に一度はご家族と受診に行く。その他随時ご家族と外出し食事等をしたりしている。誕生月にはご利用者の要望に応じ、外出支援を実施している。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	こらっせ、傾聴ボランティア、カラオケ、書道、避難訓練の協力、地元のお祭りへの参加等、地域に根付いた交流を深め支援している。清掃ボランティアの協力を頂き、棟内、庭内の清掃を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者、ご家族の希望される医療機関を受診している。状態変化時は、随時主治医への報告書を作成し、情報交換、連携を図り、適切に医療が受けられるように支援している。状態によっては、往診して下さることもある。	利用者の希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診は家族の付き添いを基本としているが、急変時等は職員が対応している。受診時は事前に医師に利用者の状況を電話で伝えたり、家族に利用者情報を渡すなど、情報の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて同法人施設の看護師に相談、助言を頂いている。薬は調剤薬局に相談し指示を頂き健康管理を行っている。又、月一回の看、介護合同主任会議(柄の木会)にて主任看護師と情報交換を行いアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、週に1~2回、経過をご家族に伺ったり、直接病院に行き治療の経過、方向性、利用者の状態を確認している。また、退院時は退院指導や退院後の注意事項等細かく確認し医療機関、ご家族との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に至った場合の対応について説明している。そのような状態になってきた場合、ご家族や主治医に報告、相談をし指示を仰ぎ方針を共有している。また、同法人の特養への住み替えなどを含めた説明も行っている。	家族とは重度化した場合の対応を契約時に話し合い、利用者や家族の希望に沿った支援に努めている。医療行為が必要な場合は、医療機関や同法人の事業所への住み替えをスムーズに出来るように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し定位置に設置、全職員が熟知している。緊急時対応やノロ感染症についての内部研修を開催し全職員が迅速に対応出来る技術習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルは所定の場所に掲示し職員は熟知、地域の消防団、消防署の協力を得ている。隣接施設との定期合同避難訓練、召集訓練、うらら独自の想定避難訓練を月1回実施し、カンファレンスを行い改善、マニュアルの見直し、修正を行っている。火災報知機を利用し通報訓練も行っている。	運営推進会議で災害対策を議題にあげて意識付けをし、日頃から消防署や消防団との連携や協力を得ている。消防署立会いのもと、法人施設合同の消防訓練、召集訓練の他、毎月1回、様々な場面を想定して、事業所独自の避難訓練を行っている。備蓄は棟ごとに食品庫に設けている。	法人の連携により災害対策に取り組んでいるが、あらかじめ避難場所の家族への周知や避難場所での防寒方法など、さらなる検討を期待したい。

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇改善委員会による内部研修、ロールプレイングを実施し、職員間にて意見交換し改善に努め、朝礼時、介護接遇マニュアルを唱和し意識向上を図っている。	介護の基本は接遇であると捉え、内部研修では接遇やロールプレイングを学び、尊厳ある暮らしのために日常的に確認しながら取り組んでいる。個人情報に記載された書類等は事務所内に適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が何を求めているのか、言葉に出来ない気持ちを表情等から観察し、個々の思いに対応出来る様努めている。自己決定が難しい場合、ご家族の協力も得て、その方に合った支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は決まってはいるが、その日の状態で安心、安全に生活を過ごせるよう一人一人のペースに合わせて無理をせず要望に沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	要望に応じ移動美容室を利用している方もいるが、家族がカットに来ているご利用者もいる。おしゃれ等以前より継続できていることがあれば、ご家族にも協力頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付け等、ご利用者の出来る事への支援、又、食事の提供形態も、お楽しみメニューや外出支援等でご利用者の好きなものを伺い、食事が楽しみなものとなるよう提供し支援している。	食材は宅配業者による福祉メニューを利用し、職員が調理している。畑で収穫したものを活用することもある。利用者は野菜の皮むき、米とぎ、盛り付け等、出来ることを一緒に行う他、手作りおやつや買い物に行くこともある。職員も一緒に会話をしながらゆっくり食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量が落ちているご利用者を職員全員が把握し、食事形態の変更、嗜好品を提供し少しでも多く食べたり飲んだりして頂ける様支援、又、誤嚥を防ぐ為にご利用者の状態に合わせて、刻み、ミキサー、とろみ対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご利用者に口腔ケアの声掛けを行い、ブラッシングが厳しいご利用者には職員がガーグルベースン等使用し、うがい、ブラッシングの介助をし口腔内を清潔に保持出来る様支援している。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者のその日の体調を考慮しつつ、定時のトイレの声掛け案内、可能な限りトイレで用を足して頂ける様、又、気持ちよくトイレに行ってもらえる様、声掛け、支援を行っている。	オムツ使用者も多くなってきている現状ではあるが、生活リズムに沿ったトイレ誘導や耳元でのさりげない声かけなど、プライバシーに配慮し利用者個々の状況に応じた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防の為、歩行訓練等の運動や体操を行い、個々に応じ主治医と相談し薬を使用し、調節・改善している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望を優先し、無理強いせず入浴している。あまり好まないご利用者には声掛けを工夫したり、足浴や、体を清潔に保てるよう着替えだけや、時間をずらす等、その方のペースに合わせている。	週3回を目安に、利用者の希望を確認しながら入浴している。入浴を拒む方には時間を変えたり、言葉かけを変える等、一人ひとりに合わせた対応をしている。季節に応じた菖蒲・バラ・柚子湯などの工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じ、空調、加湿器を使用し、就寝時の環境に気を配っている。身体が温まる様就寝前にはハチミツ・生姜湯を提供し、安眠出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々にファイルを作成し、副作用・注意事項・相互作用等すぐに確認出来る様にしており、職員全員が把握出来る様になっている。薬が変更になった時はカンファレンスをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者が無理なく行える家事手伝い等して頂き、役割を持って生活して頂いている。又、天気の良い日には観音様参拝や、畑を見に行く等し支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月ごとの行事や誕生日支援で希望を取り、企画書を作成し実行している。外出先では、ご家族や地域の方にも協力頂き事故のない様支援している。	日常的には事業所周辺や、法人内の敷地の散歩をし、歌を歌ったり、観音様にお参りするなど、できるだけ多く戸外に出る機会を作っている。利用者の誕生日には寿司屋やうどん屋等に行ったり、ミニドライブや、花木センターなどに行き気分転換を図った支援をしている。	

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金としてお預かりし、行事での買い物や、外出時の食事代等必要時に精算している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望に応じて手紙を書いて頂いたり、ご家族と電話でお話し出来る様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂く配慮をしている。又、植物や金魚の世話をご利用者にお願ひして楽しみを見出している。温度調整を常に行い気持ち良く過ごして頂ける様にしている。	室内は明るく落ち着いた色彩で室温も適度に調整されている。リビングには利用者と職員で作成した貼り絵や折り紙等が飾られ季節感を出している。掃除は利用者と共に職員が毎日行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファにて会話ができる空間を作っている。又、足裏マッサージやホットパックも行いリラックス出来る様支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の今まで使用していた調度品を持ってきて頂き、又、写真や仏壇も設置し毎日拝んでいるご利用者もいて、入居前の生活を続けられる方もいる。	ゆったりとした間取りの居室は、家族がテーブルを囲んで団欒できる広さがある。利用者が使い慣れた椅子やテーブル等を置いたり、利用者の手作りの作品や家族と一緒に撮った写真を飾るなど、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すりの設置にて安全を確保している。廊下は車椅子にて自走できる様、何も置かないようにしている。トイレ、居室の分からなくなるご利用者の為、文字で名前を貼る等している。		